

# 令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 『『令和の幸手スタンダード授業5』と『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』を目指した取組事例』

幸手市教育委員会

### 令和の幸手スタンダード授業5

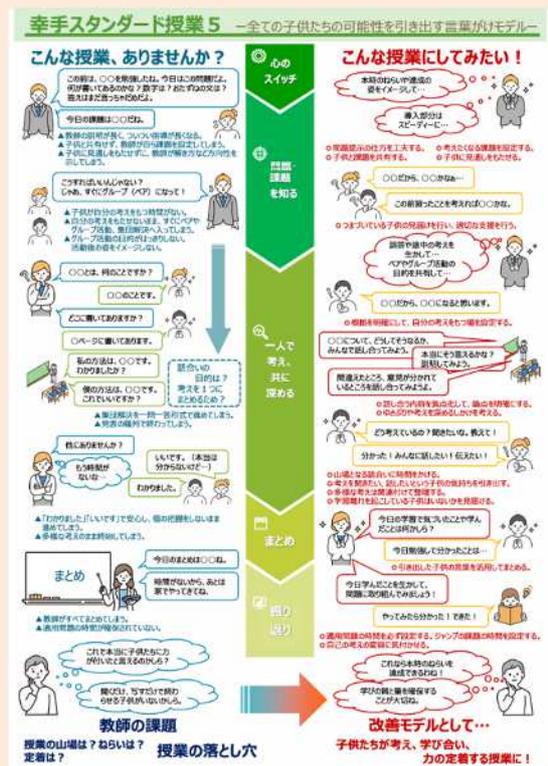
子供たちが未来・社会を切り拓くために、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められています。

このような資質・能力は、毎日の授業の中で意図した実践を繰り返しながら、義務教育の中で育成していくことが必要です。

そこで幸手市では、教職員の授業力向上に資するため、以下の資料を作成し、授業等で活用するよう働きかけています。



令和の幸手スタンダード授業5



言葉がけモデル



令和の幸手スタンダード授業5 with GIGA



今後も、日々の授業等で、一人一台の学習者用端末の環境も活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現すると共に、主体的・対話的で深い学びを推進し、「豊かな学びで未来を拓く」教育を目指しています。

## 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

### 事例1

○学年・教科名 小学校第4学年・国語

○単元名 「詩の楽しみ方をみつけよう」

○身に付けさせたい力

- ・ 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる力。
- ・ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる力。
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる力。

○教員の働きかけ、児童の反応

- ・ 「単元を児童と教師で共に創る」ことを意識して、授業を展開した。児童に「詩集をつくりたい」という思いを喚起させ、そのための学習計画を、児童と教師で共に立てていった。児童にとって、「自分達で考えた課題・学習計画」となった。
- ・ 詩に関する多くの本を用意し、いつでも読める準備をした。また、いつでも仲間や教師と繋がっているクラウド環境を用意した。一人で・仲間と・教師と学ぶ子が共存する授業が成立し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られた。



### 事例2

○学年・教科名 中学校第1学年・外国語（英語）

○単元名 「Program7 Research on Australia」

○身に付けさせたい力

- ・ はっきり話をして、必要な情報を聞き取ることができる力
- ・ 簡単な英文から必要な情報を読み取ることができる力
- ・ 簡単な表現を使って相手と伝え合うことができる力

○教員の働きかけ、生徒の反応

- ・ 「オーストラリアの文化を十分理解させた上で単元に入りたい」という授業者のねらいを明確にして、授業を展開した。
- ・ 教科書、学習者用端末、提示装置といった様々な媒体でオーストラリアに関する情報を収集させた。ねらいが明確であるため、調べた内容は違えど、生徒一人一人の関心に沿って学びを深めることができた。
- ・ 意図的に交流する場面を設けるとともに、生徒同士がいつでも関われる環境で授業を展開した。そのため、生徒が互いに助け合ったり、自身の学びを他者に英語で伝え合ったりする様子が頻出した。

